

琉球大学学術リポジトリ

学級活動における養護教諭の行う保健指導の実践的研究(1) ー附属中学校におけるエイズ教育を通してー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践研究指導センター 公開日: 2008-11-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 昇, 池原, あさみ, Kinjo, Noboru, Ikehara, Asami メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7928

学級活動における養護教諭の行う保健指導の実践的研究(1)

— 附属中学校におけるエイズ教育を通して —

金城 昇* 池原 あさみ**

(1993年6月30日受理)

今回の学習指導要領は、学級活動での養護教諭の保健指導への参加をうたっている。しかしながら、養護教諭の役割は、個別指導、集団指導、学級担任・保健担当教諭への支援など多領域にわたる。また、各学校では、学級活動などにおける保健指導が必ずしも実践されているわけではない。一方、それぞれの学校における子ども達の健康現実を把握した時、早急な集団指導が必要かつ重要な場合もある。

そのような中、筆者らは学級活動や道徳、その他の時間での保健指導への活用を目的に教材づくりを進めている。本稿では、今問題となっている「エイズ教育」の実践を通して、その教材化といくつかの問題について検討した。

1 はじめに

森¹⁾は、養護教諭の責任範囲・役割として、個別指導、集団指導、学級担任・保健担当教師へ支援、管理者への進言、父母への進言、実態調査、校外機関との連絡などをあげ、養護教諭の仕事が多岐にわたることから直接的な指導を憂慮している。一方、今回の学習指導要領は、学級活動では「養護教諭などによる指導についても考慮する」とし、養護教諭の直接的指導をうたった。このように養護教諭の授業参加への積極さと消極さは学校においても存在し、対立的状況に陥っている場合もある。しかし、むしろこの場合「誰がやるべきとか、誰はやってはいけないという機会的、タテマエの発想ではなくて、どういう指導をすることが子どもの性(保健)に関する能力を育てることになるのか、という観点から指導力量を高め合い、協力し合うことが原則」²⁾(・・は筆者が挿入)であるように思う。このような考え方に立った時、養護教諭にとって必要な資質が見えてくる。近藤³⁾は、「保健文化の“仕掛人”としての養護教諭

と「保健授業の“オーガナイザー”としての養護教諭」をあげ、「保健の授業を養護教諭が担当するか否かはさしあたっておくとしても、こんな授業を子ども達に与えたいというその一つの授業のイメージを小学校の担任教師たちに十分伝えられるような力量をつけていっていただきたい。それは、これまで言われてきたような“資料提供”とかそういったものではなくて、もっと立体的で、担任教師の心を打つような、そういうものであってほしいと思います。そういう力量をつけるための学習を大いに進めていくことが求められている」としている。このような視点に立った場合、授業を担当するかしないかを問題にするのではなく、養護教諭の行っている「授業研究」や「教材づくり」が、担任教諭や体育教師へのもっと立体的で心を打つような“資料提供”になると同時に、養護教諭自身の保健指導および支援としての保健指導に大いに役立つと考える。

ところで、エイズ感染に関する「異性間接触による患者および感染者数の急増」「20代・10代の患者および感染者数の増加」「アジアおよ

* 琉球大学教育学部(保健体育科) ** 琉球大学教育学部附属中学校

び日本での患者および感染者数の増加」はもう他人事ではすまされないという意識を一般化させた感がある。

これらの問題状況を踏まえてかどうかは別にして、沖縄県教育委員会でも「エイズ教育」をスタートさせた。講演会・研修会の開催、エイズ教育研究校の指定、エイズ教育の内容や教材、指導計画の開発等目白押しである。

一方、従来から性教育の重要性は実感されつつも「寝た子を覚ますな」式の「寝た性教育」を覚ますな」が多くの教育現場での常識であった折、この「エイズ」問題は、“性交”や“コンドーム”がキーワードとなって、またぞろ「性教育」問題が再燃してきているように思えてならない。

さて、このような状況は、一種の流行にも似たような「エイズ教育」を契機に、「性教育」および「エイズ教育」を如何に充実・発展させることができるかが問われているように思う。

そこで、本稿では、附属中学校において実践した「エイズ」の授業を通して、保健指導における教材づくりのための実践分析を行うと同時に、「エイズ教育」の問題についてもいくつか論究した。

(1) T-C型授業記録

エイズの正体とその予防

- T 今日はエイズについての学習をします。
T 皆さんは（エイズについての）調べ学習をしたそうですが、今日は総復習です。
T からだに関わる部分をテーマに沿ってやってみたいと思います。
T 今日の学習は（板書をしながら）「エイズの正体とその予防」です。
T 今、配ったクイズがあります。3分間、

2 「授業記録」とその分析

本稿で対象とする授業は、1993年2月20日日本学部附属中学校3年1組の学級活動で行った授業である。この授業は、「エイズ」に関する教育内容の構想ができあがった段階での飛び込み的实践の記録である。藤岡⁴⁾は「授業づくりにおいて、教師は、まずレベルの異なる4つの問題領域を自覚的に区別すべきである」とし、その4つのレベルとして①教育内容 ②教材 ③教授行為 ④学習者をあげている。さらに藤岡は「これらの問題領域のそれぞれについて、理論的・実践的に蓄積された知見に学ぶ。新たに構想を練る。多様な発想をつき合わせ、その中から自分独自のスタイルをつくり出す。各レベルがどのように関連しあうかの見通しを立て実践する。このような創造的過程が授業づくりの仕事である」としている。つまり、本実践は、授業の構想ができあがり、教育内容と教具が準備されたところでの実践であり、この授業記録を分析していくこと自体が藤岡のいう授業づくりの仕事の過程の一部である。以下、T-C型授業記録で紹介する。

- 自分のわかる範囲で答えて下さい。番号のところに○×をつけて下さい。
T 「エイズはどんな時に感染するか、自分の知識が正しいか調べてみましょう」
C 先生どこに書くの？
T 番号のところに
C 番号？どこに書いてあるの？
T いっしょの風呂やプールでもよい？

君はエイズに勝てるか！

正しい知識が君の命を守る武器だ

Q 1 エイズはどんな時に感染するか、自分の知識が正しいか確かめてみよう。

- ① 一緒に風呂やプールでもよい。 ()
- ② 食器は同じものを使わない。 ()
- ③ 輸血や血液製剤で感染する。 ()
- ④ 同じトイレ使っても心配ない。 ()
- ⑤ キスをすると感染する。 ()
- ⑥ 性交（精液や膣液）で感染する。 ()
- ⑦ 歯ブラシやカミソリは共用しない。 ()
- ⑧ 母親から胎児へ感染しやすい。 ()
- ⑨ 皮膚にエイズの血液がつけば傷がなくても感染する。 ()
- ⑩ 使った注射針で感染する。 ()
- ⑪ 蚊や虫に刺されると感染する。 ()
- ⑫ せきやくしゃみからは感染しない。 ()

T 12問の内、1番は？ 「○」

T 2番は？

C 「使ってもいいから、○」

T すごい

T 3番、「輸血や血液製剤で感染する」はどうですか？

T K君、「輸血や血液製剤で感染する」で感染しますか？

C 何？

T 3番？ 感染する？

T 日本は今、感染しないように熱処理というのがされています。インドとかタイとかきちっとしていないところでは感染します。（簡単に言っているのか、差別にならないか。）

T それに、これは（血液の処理）すごいお金がかかる。だから、日本は大丈夫。日本やアメリカなど文化の発達しているところは大丈夫です。後進国に行きますと（感染）します。（同様に、差別を意味しないか。）

T 「次、同じトイレを使っても心配ない？」

T 感染する、しない？

C 「しない」

T しないが正しいです。

T キスをすると感染する、これはどうですか？

C 口の中に傷がなければ大丈夫。

T ?ね。それから、6番はどうですか？性交で感染する。これは、？

C ……………。

C ……………。

T 「歯ブラシやカミソリは共用しない」ということは感染するかも知れない。

T 8番は？

C 感染する。

T 感染しやすい。しないこともあるけど、しやすい。

T 9番「皮膚にエイズの血液がつけば傷がなくても感染」する？

C ……………。

C ……………。（しばらく沈黙）

T 傷がなくても感染する？

（聞き取れない）

T 10番「使った注射針で感染」する？

わからない？

T 11番「蚊や虫に刺されると感染」する？
 C しない、する？
 T 12番「せきやくしゃみからは感染」しない
 する、どうですか？
 (発問、指示が一定していないことが気にな
 なる。そのことが子どもの反応としてで
 ているのではないか。)

T えーと
 T 皆さん相当勉強しているから、先生何も
 教えることないので「……さん」達の発
 表を復習しましょうね。
 T エイズの原因はなんですか？
 C C8さんはエイズって何ですかって聞い
 たら、「後天性免疫不全症候群」ときちんと
 言えたんですね。
 C 「エイズウイルス」
 T エイズの正体は「エイズウイルス」
 (板書)
 T さて、エイズウイルスによって引き起
 こされる病気をエイズといいますね。
 後天性免疫……？
 C 不全症候群(子どもが答える)
 T このエイズウイルスは、私たちのから
 だのどこに生きているのでしょうか質問
 です。
 C リンパ球
 T リンパ球というのはどこにありますか？
 (どこという発問はどうだろうか)
 T リンパ球は血液中の(板書しながら)
 C ……。
 T リンパ球は血液の中にある。もう少し詳
 しく学習します。
 T 血液の中の……？
 T 血液にはどんな種類がある。
 C ……。
 T 白血球、赤血球、血小板とか、それから、
 ……。(ききとれない)
 T この中の、白血球の中にありますね。
 (板書)
 T そして、白血球の中にもいろんな働きを

するのがあるんですね。

T 私たちのからだの中における白血球の働
 きは何ですか？
 C ……。
 C 「ばい菌退治」
 T そう、「ばい菌退治」これを増殖作用とい
 いますね。
 T 白血球はいろんなばい菌を？
 T 微生物というか、ウイルスなど、から
 だにとって異物になる細菌を殺す。
 T それから？(他の答えを要求しているが
 何を期待しているのかわからない)
 それから？
 それから？
 T この細胞がからだの中に入ってきたとき
に、まず、白血球の中のマクロファージ
というアメーバのような形をしたもの
が、この細菌を食べてしまうんです。細
菌を囲んでいって食べてしまう。簡単に
言うと食細胞と言うんですが、食べる細
胞と言うんですけど、マクロファージ
が細菌をまず殺す。殺したら、これで、
解決できたらいいんですが、これの力が
及ばない。これを殺しながら、さらに白
血球の中の、ヘルパーT細胞に連絡する。
どんな細菌でどんな力を持った、どんな
特徴を持ったばい菌かこれに連絡する。
連絡ができれば、ばい菌にあったどんな
攻撃をなさいというように、まず、キ
ラーT細胞を派遣するんです。そしたら、
これも殺しながら、さらに、これと(キ
ラーT細胞)、これを(マクロファージ)、
殺すんだけども打ち勝ってないから、
からだの中で打ち勝つ力を、免疫という
ものをつくるんです。
これが白血球のB細胞です。この中で骨
髄の中でつくられるから、骨のBONEと
いってB細胞というそうです。だから、
このマクロファージでまず細菌を殺し
ながら、連絡がいく。これ(ヘルパーT

細胞)は、指令をする。殺しておいでと指令をする。殺しながら、さらに、病気に打ち勝つ力をつけるB細胞へ免疫を作りなさいと指令をする。これ(B細胞)は免疫が作られたときに、さらに、細菌(攻撃)にいくわけです。普通の病気とか、微生物には、私たちがやっているんですね。ところが、今世の中で非常に注目されているこのエイズは、正体であるエイズウィルスは、私たちのからだの、先ほど述べた、リンパ球の中に生きている。しかも、血液の中に生きている。(聞き取れない)

この中のどこに生きていると思いますか？

T 白血球の中の、皆さんだったら、この中のどれを狙えば絶対勝てると思ういますか？
(これまでの下線部分の指示代名詞はすべて黒板の絵をさしながら説明しています。以下も同様)

C 指令するもの。

T そうです(すごいと子どもを誉める)。
指令するものに、このヘルパーT細胞というところを、もう、これ(ヘルパーT細胞)さえやっつけば思うようにあやつれますね。だから、このエイズウィルスというのは、今、なぜ、たくさんの医学、科学を結集してもやっつけきれないのかといったら、このヘルパーT細胞の中に、これのまん中になる核の中に潜んでいくんですよ。こうして、(図)他のものにはいかない(黒板で図示しながら)、からだの中に入ったらヘルパーT細胞の中にいてこれ(ヘルパーT細胞)の中で、6週間~8週間、あるいは、3~6年間の長期にわたって、その人のからだの状態に応じて、ヘルパーT細胞の中に潜んでいて、分裂していつて増えて、しまいにはこのヘルパーT細胞を破壊してしまうんですね。(図)そしたら、いろんな細菌が入ってきても、マクロファージや

(キラーT)細胞がどんなに頑張っても、増殖作用を、細菌を殺す働きをしてもこれ(ヘルパーT細胞)が細菌が入ってきたよう、エイズウィルスが侵入しているよとキャッチもできない。

それから、免疫を作りなさい、病気に、細菌に、打ち勝つ力(免疫)を作りなさいという命令もできない。からだの力はどんどん落ちていく。これが、後天性、生まれて後(板書)、免疫不全、免疫の力が、病気に打ち勝つ力が、まったく、働かない(不全を指して)。症候群(シンドローム)いろんな症候が集まって(板書)こういう病気をVTRで(以下聞き取れない)……。

(VTRで紹介、しかしこの段階でまだ、編集しているわけではない)

T こういうふうにして、病状がわかりますね。きょうのテーマは、これから始まるんですが、こういうふうにして(黒板を指して)起こる病気、私たちが、今、医学の力を結集してもまだ進行を止めるぐらいの薬は開発されているけれど、完全に直す、エイズウィルスをやっつける方法はまだ発見されていない。勉強して、皆さんの中から、エイズウィルスをやっつける人が出て欲しいことを希望します。私たちがこれから生きていく(とても大事なことなんです)、このエイズウィルスがからだの中において、しかも、こういう症状を引き起こすようになったんですが、「どんなふうにして感染しますか。」

感染経路(板書)

T 一つ何でしょう？

T はい、感染経路は、(指名する)

T どのようにしてうつるんだった？ C君

C 何は、

T エイズはどのようにうつるの？

C ここに書かれている（クイズを指している）

T だから一つでもいい。

C 「輸血や血液製剤」

T 血液感染ね、血液を通して（板書）

T これは、輸血とかそういうもので引き起こすけど、今は、日本では心配なくなっている。ところが、この血液感染というのは、たとえば、傷口がある、たまたまそこに感染者がいて、この傷口からだエイズウイルスは簡単にうつる。

T だから、これから後、自分達で怪我をしたり、もうどうしようもない、自分がショックを起こすぐらい大怪我をした場合を除いて、ある程度の怪我は、人に血液を触れさせないで処理できる、そういうマナーがとても大切だと思います。皆さんが大人になって、お父さん、お母さんになったら、自分の子どもにしっかり教えて欲しいと思います。そのためには、今から自分でチェックしていかないと、自然に教えられないね。だから、感染経路は傷口からうつりますよということで傷口の処理ね。

T もう一つは？

C

T C君

T チェックリストから見ていいですよ。

T この中の（チェックリストの中）感染するから？

C 「性交」

T 性交でうつりますけれども、これをまとめて、異性間接触、1981年頃アメリカで最初に発見されたとき、ホモ（笑い）同性間、男の人と男の人の性交、それで、出てきたために、同性愛者の病気と思われていた。そうではなく、いろいろ調べていったら、血液の中に、必ず同性同志だけでなく、異性間の接触（板書しながら）異性間感染、今は、これが大きな問

題になっています。

T ここで、性交といわれたときに、皆さん、何か疑問に思わなかった。何で白血球の中にあるのに、なぜ性交でうつるのですか？（難しい発問である）

C 血液

T 性交するとき血液がでますか？（発問がどうか）

T ちょっと復習するよ。

T 皆さんは保育の授業の時間に勉強したでしょう。
（1学期）
（説明）図

T これ（子宮の教図を黒板に貼る）女性の子宮です。
いのちになるためには一度に3億から5億ぐらい射精されるね。それが（精子）子宮、膣（赤ちゃんを育てる部屋）に届くまでには約75万個に減ってしまう。さらに、ここまで（子宮の図をさしながら）には数千～数百になって、一生の間に4百個（1ヵ月1個）の卵子とこっちで結びついて、はじめて「いのち」が生まれる。だから、性交というのはしっかり子宮膣まで（精子を）送り込む、だけど、血液でもないのにどうしてうつるの？
どうしてこんなに増えているの（黒板を指す、異性間と書いた部分）？

C 粘膜がある。

T 粘膜

T この白血球（リンパ球）というのは、毛細血管を通過して動脈と静脈が交換しているけれども、これは（マクロファージやヘルパーT細胞など）、分子量が大きく（小さく）からだの組織、体液にまで潜り込んでいって混ざっているそうです。たとえば、怪我をした時など、（手を指して）膣になるでしょう（血が出ますが）、すりむいた後など汁が出るでしょう。症液ね。からだの組織のね。ああいう中に

もマクロファージとかこういう（ヘルパーT細胞）などがあるんだそうです。ということは、核になるこのエイズウィルスがいるヘルパーT細胞なども存在する。だから、性交の時もでているんです。しかも、C君が先ほど粘膜といったけど皮膚の粘膜はサララップほど強いそうです。ところが、この粘膜というのは、もっと薄くて血管がいっぱいあります。しかも、破れ安い。ちょっとの刺激でも破れ安い。性交というとき、この（図をさして）ワгинаもそうです。（産道、膣も）ここ（ペニスを指して）から精液が出ていく時、もっと小さいひだがいっぱいですね。そこに送るわけですから、ここでも、分泌液も、この（図を指して）エイズウィルスが入り込めるリンパ液がある。だから、精液にも身体の液の中にもリンパ液がある。タンパク質の（確認？）それで、この異性間接触というのは、（ところで）血液感染は防ぐことができました。ちゃんと血液全体を熱処理することによって、しっかりエイズに感染していないかチェックすることによって今は防ぐことができました。日本とかアメリカは。ところが、もう一つあるんだけど、お母さんから子どもにね3つある。母子感染（板書しながら）、お母さんから子どもにうつる母子感染ね。この3つの中で、これも（母子感染を指して）チェックできますね。先生なんか定期検診で病院にいきます。そしたら、血液検査も梅毒などの性病、子どもにうつる悪い病気がないかを毎月検査します。だから、ここも（母子感染を指して）チェックできます。ところが、今、問題なのはここんなんです（黒板に書いた異性間接触の字を二重丸で強調しながら）。特にこれが（黒板を指して）問題になっているのは、男性同

性愛者もだんだん自分達の病気について知るようになった。勉強するようになった。だから、粘膜を刺激して、リンパ球を相手の体に送らないようにすることができます。異性間接触というのは、性交する時、しっかりコンドームをつけて予防するようと呼びかけられています。精液を相手に送らないようにといわれています。

でも、この性交というものの意味には、（C君、聞いていない）3つあります。日本の男性がタイとか東南アジアに売春ツアーに出かけて行く、これは問題になります。この場合、ただ楽しければいいという快楽性（板書）、人の心を感じる前に体だけで感じてしまう。そういう快楽性、これは悪いとは言いません。これも必要ですけどね。これだけでは人は生きていけませんね。この性交は、元々は、いのちを送る、一番大切なのは、いのちを送る働きでした。いのちを送るために、しっかり、陸上の動物は、精子も卵子も、乾燥や熱に弱いから体の外に出てしまったら死んでしまう。だから、しっかり、体内授精、体の中で、精子を送ることによっていのちを守る。

だから、もう一つには、生殖（板書）、いのちを受け継ぐ、生殖ね（黒板を指して）。これは（“快楽性”を指して）楽しいとか、気持ちいいですね。そういったことです。これは（“生殖”を指して）いのちを受け継ぐ、そして、先生達は、お互い同志でしたら、自分達が、ほんとに愛し合って一つになって、自分達のいのちを次に受け継いでいく、こういういのちを受け継ぐ。

もう一つは、“連帯性”（板書しながら）、これは、例えば、いっしょにいて心がやすまる、家族、兄弟愛、親子の愛、自分をそのまま出せる認め合える関係ですね

(繰り返す)。

そういう意味があるんですが、今ね、

(C君：聞いていない注意) あなたの将来への先生からのメッセージなの、自分が、こういう“性交”を(“快楽性”を指して)むやみやたらに誰とでもたかさんの人と、気持ちがいいからと、そういうかんぐりが起こってきますね。こういう“性交”をやってしまうと、もしかしたら、このエイズウイルスがもう一つ恐ろしいことは、感染しても、3週間とか8週間まで検査しても陽性とでない。最初は陽性であるかどうか(感染しているかどうか)血液検査をしたらわかるというところではない。感染しているのが、すぐにわからなくてもその間も、実は相手に感染させる力を持っている。そこが怖いんですね。だから、今、(TPシートを準備していたけど、プロジェクターがないため見せられないけど)、今、(TPシートを指しながら、これはヨーロッパ、これはアメリカ、中南米ですね。)みんな頭打ちか、減ってきている。ところが、逆に断然急激に伸びてきているのは、アジア、南アジア、タイ、インド、中国、日本など、急激に増えていっているんです。それは、何故かといったら、まず一つは、エイズに対して正しく知って予防できる知識を持っている人が少ないから、少ないということ、もう一つは、こういうこと(“性交”)が外国に行って、旅の恥はかきすて、わからない、あんまり感じない、こういうのが(“快楽性”を指して)まだまだある。(この説明は必要だろうか)

このエイズ(患者、感染者)といっしょにいてもかからない、トイレを使ってもかからない、お風呂もプールも大丈夫、そして、皆さんは充分勉強している。だから、エイズの人が、もし、自分の周り

や家族の人にも一緒に生活できます。支えてあげることがかえって必要かも知れません。ただ一番大事なことは、自分もかからない努力をきちっと知的にやるべき。そして、私たち人間というのは、時としてこういうのに(黒板を指して、特に“快楽性”)負けます。しっかり予防したいんだけど負ける時もある。その時に、自分の体の仕組みをしっかりと知っていれば防げると思います。まずいなーと思ったら“NO”と言える女性になる。その場の雰囲気流されない。

“NO”と言える。先生、いつか、あなた達の保育の時間に話しました。これですね(“性の自立”と板書しながら)。相手を大切にする。男性徒だったら、男性の、自分の、体を知って、しっかり自分をコントロールする。自分で自分の生き方を見つめて、コントロールする。こういう生き方をして欲しい(“性の自立”を指して)。こういうことにかかわっているかな〜と思います。

(時間もありませんけど) 附属小の宮里先生は、県内で先立って小学校でエイズの指導をしています。テレビにもでていたのでよくわかりますが、その春江先生と学習していて、すごく印象に残ったのがあります。(C君：聞いていない注意) 私たち養護教諭は、自分の教え子からエイズの感染者を出させない、発病者も1人も出させない、ことを自分達(養護教諭)の仕事の一つとして、核にしていかなければならないと思う。先生は、ふと先生の子どもの頃の先生達が、「教え子を再び戦場に送らない」という運動を、平和教育をいっぱいやってきました。だから、私たちは、先生も戦後生まれで皆さんと同様、戦争のことについてわかりませんが、戦争の恐ろしさを自分の教え子や自分の子どもに話していける力を

充分持っているつもりです。
皆さんはこういう（エイズの）学習をしたら、どんなにしたらエイズになるのか、今日からヘアブラシも簡単に借さない、もちろんヘアブラシで、傷があった場合でも（うつるのは）何万分の一です。ほとんどうつらないと考えていいんですけど、マナーとして覚えて欲しい。また、「唾液や傷でうつりますか」というのがあったけど、唾液も一つの体液ですね。唾液の中にも（エイズウイルス）いるかも知れないけど、唾液がバケツの18杯分ぐらいないと、その中に生きているエイズウイルスだと感染するかも知れない。だから、唾液でもおそろくうつるぐらいの唾液を相手に送ることはできない、不可能だろうと言われている。マナーとしてエチケットとして覚えて欲しい。だから、ヘアブラシを簡単に借したりしない、傷の手当は自分です。これから育っていくみんなが自分の相手、自分が共に生きていく、いのちを受け継ぐことも大切です。自分のいのちが、自分の産

んだいのちを育てることによって自分も育てられているんですね。子どもが13歳、14歳になって、14年母親していますから、一緒に親も育っていくんですね。いのちを受け継いで、また孫ができて、一緒にいてほっとする、落ち着く、これはコミュニケーション（“連帯性”を指しながら）、人生を共に生きようとする人とのコミュニケーション大切ですよ。こういう意味（性交の）もあるから、この感染経路を絶つ努力、今自分はどんなことをしたらいいか、知的に学んで、自分の中でこれからの人生に、自分の人生の中で、しっかり自立して行って欲しいと思います。次の機会（エイズについて学ぶ）がありましたら、エイズの症状などを学びたいと思います。3年1組からは、将来エイズが出ない、それはできますよね。不幸にしてかかったら、知らないでうつってしまったら、うつさないように、人に感染させないようにする、そういうことを“心”にとめて、
.....感想をかいて下さい。

(2) 分析①－内容構成について

構想の段階でこの授業における内容構成は、①エイズの正体：後天性免疫不全の意味 ②感染経路：血液感染・母子感染・性行為感染 ③性交の意味－性的自立であった。特に本実践は、現在のエイズ問題の中でも性行為による感染の急激な増加が20代・10代であるという問題意識に立っての授業構想である。筆者らは、「エイズ」の授業において性交を扱うべきであるという立場に立っている。その意味でも本実践では、特に、性行為感染と性的自立を連動させ、性行為感染の問題の重大さと、一方で「性交」の意味と性的自立を位置づけたことか特徴である。本来ならばこの「性交の意味」や「性的自立」は、これまでの性教育において取り扱われてしかるべき内容であるが、今回あえてエイズ教育の中味として位置づけ

た。したがって、1時間の授業内容としてはかなり多いように思えるのも事実である。しかし、エイズ教育における一つの典型的な内容構成として捉えてみてはどうだろうか。さらにこの構成の発展として、もう一方の柱である「差別や偏見」・「人権」という問題も扱うべきであろう。とりあえず1時間構成にするか2時間もしくは3時間構成にするかはここでは伏しておく。この1時間構成としての内容の多さの問題は養護教諭の実践において多々みられるが、これは指導する時間が限られるために一度機に多くを教えたいという養護教諭の願いからくる問題である。このことについては別の機会に検討する。ところで、本稿の授業記録から1時間の内容構成としてみた場合、「説明」を簡潔にすることによって1時間構成としても十分可能であることが

確認された。しかしながら、内容構成の③性交の意味一性的自立の部分については、どのような教材でどのように指導するか課題として残される。1時間の構成として「快楽性」・「生殖性」・「コミュニケーション」まで扱うのであれば、どんな教材が適当なのかが問われている。今のところ「アリソンガーツ」の文章教材が適当ではないかと考えているが今後の検討課題である。

(3) 分析②—教授行為について

本稿では、特に教授行為の中でも「説明」について検討する。

授業記録からわかるように「説明」が授業のかなりの部分を占めている。これは何も池原実践に限ったことではなく、「教師の願いや感動」が災いし、いざ子ども達に伝える段階で親切丁寧な「説明・指導」になることをよく経験していることであろう。このことを「学習者」の側でみたとき、「教えられてしまうことはつまらないこと」⁴⁾なのであることを考える必要がある。そのことは同時に、養護教諭にとって割り当てられた時間がその時間しかなく、教えたいたことがあれもこれもと多くある時、すべてを教えるべくついつい説明口調になるのをよく見かける。しかし、そ

れは教師のエゴでしかなく、教材がどんなにすばらしく重要なものでも（例えば、それがエイズであろうが）、授業における子ども・学習者にとって「教えられてしまうことはつまらない」のである。我々が子ども達にとって重要な健康問題であるにとらえていても、学習者にとっては、具体的な事象や事実認識を通した知識でないと、行動変容へとはつながらない。

さらに、このような教師の教育内容や教材への思い込みや思い入れは、えてしてこのように説明の多さにつながり、教師がこの問題はこの子ども達にとって非常に重要な健康課題であると思っていればいる程、子ども達がのってこなかったり、おしゃべりが多くなったりした場合、最終的に「君たちにとってとても大切ですよ」式の「おしつけの保健指導」「おしつけの保健行動」になりがちである。この場合すでに「科学的認識による行動変容」ではなくなる。これは子どもに原因があるのではない。教師の教授行為（ここでは「説明」をとりあげた）によるのである。

このようなことから、学級活動における保健指導においても子どもが主体の授業づくりが必要となっている。なお、上述したように本実践が教育内容の構成ができあがった時期に、教授行為に関する準備は不十分なまま飛び込み的に行った授業であることを付記しておく。

3. その後の指導案と授業評価・課題

次にその後（授業及び分析を行なった後）に練り直した指導案とその課題について記しておく。

学級活動（保健指導）指導案

平成5年2月20日（土）

3年1組 男子19人 女子20人

担 任 和宇慶 江里子

養護教諭 池原 あさみ

1. 題材名

エイズの正体とその予防

2. 生徒の実態および題材設定の理由

テレビ、新聞などによりエイズに関する日々新たな情報が流され、エイズによって人間としての生き方や、学校教育そのものが問われている昨今である。

ところが日常、何気なく口をついてでるほどエイズということばは知っているが生徒達にとって、正しい知識となり得ていないのが現状である。

生徒のエイズ観を問うた時、治らない、死ぬ、感染しやすい、ホモの人がかかる病気、血液、何だかいやらしい...等やまた、カリニ肺炎、カポジ肉腫、母子感染率は30%等と生徒間の理解の差もみられる。さらに、エイズを身近な病気として捕えていないばかりか、エイズというの意味ありげに笑う生徒や、興味本意に「あれしてないのに移る分けないやっしー」と断片的な知識で心身の育ちや男女の関わりを話す生徒もいる。

3学年の保健学習における調べ学習課題として、どのクラスもエイズを取りあげるなど生徒達にとって関心の高い健康問題である。

一方エイズは、世界的に流行し特にアジア・日本において急増化傾向にあること、しかも日本における感染者の63.6%を20代および10代の若年層が占め、異性間の性的接触が原因とされている。エイズは「欲望」との戦いであり同時に人間としての生き方そのものが問われていると考える。中学生の時期は、思春期まったただ中にあり心とからだの育ちにゆれながらも人生の中で自分の生き方や自分自身について見つめ、考え始めるときである。この大切なときだからこそ、男女相互のからだの仕組みや生命の誕生、性的自立をキーワードにした生涯を見通した健康教育を実践していきたいと考える。

人間の一生でできることのできないといわれるものに、愛と性と死がある。このことはエイズ教育においてもいえることである。からだの仕組みを通して、エイズウイルスの正体を科学的に知らせ理解させることにより、エイズ予防を含めた日常生活のあり方と自己の健康について見つめなおし、生涯を健康に生き抜く力を身につけさせたいと考え、本題材を設定した。

3. 指導目標

- (1) エイズとはどんな病気か、からだの仕組みをとおして科学的に理解させる。
- (2) 自らエイズを予防することができる行動、選択力を身につけさせる。
- (3) 感染経路における性交の意義について知らせ、自分の生き方とかかわらせてとらえさせることにより、性の自立を意識化・行動化させたい。

4. 指導計画

- (1) 家庭科保育単元の導入として、「思春期の心とからだ」「生命の誕生・妊娠・出産」について
..... 6月（2時間）
- (2) 保健学習における調べ学習で「エイズ」についてグループ発表 10～11月
- (3) 学級活動（保健指導）「エイズの正体とその予防」 （本時）

5. エイズ指導の実践

- (1) 本時のねらい
 - ・エイズは、人間の免疫機構を破壊し抵抗力を奪う病気であること、エイズの症状・感染経路についてからだの仕組みを通して科学的に理解させる。
 - ・性交の意義と性の自立について考えさせ、HIV感染者やエイズ患者に対する偏見や差別を含めた将来の自分の生き方を見つめる視点をもたせる。

(2) 本時の展開

指導過程 内容	学習活動		留意点 資料
	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	
導入 問題の発見 エイズは人類の未来を脅かす病気である。 なぜだろう？	<p>Q1. この音は何の音でしょうか？</p> <p>・録音した児心音をカセットで流す。</p> <p>ドボン！ そうなんです。胎児の心音，“いのち”の音なんです。リズムカルで力強い心臓の鼓動と音うか、生命の躍動感が直に伝わってくるのですが、実は今このいのちの音を含めた私たち人類の未来を脅かす病気が非常に注目されています。</p> <p>Q2. それは何という病気でしょうか？ また、それはどうしてかな。</p> <p>そうですね。さて、今日は今最も注目されている「エイズ」について、学習しよう。</p>	<p>何だろう？ (保育の学習を思い出して..)もしかして、赤ちゃんの心臓の音かな。</p> <p>エイズだ！ かかったら死ぬ。 死亡率が高く、治療法が確立されていないから</p>	<p>児心音を録音したカセットテープ</p>
展開 学習課題の提示 問題の意識化 エイズの感染経路について 問題の焦点化 身体の免疫システムを知らせる 白血球の働き ・微生物を殺す ・免疫を作る ・免疫システムをコントロールする。	<p style="text-align: center;">エイズの正体とその予防</p> <p>Q3. エイズについて、これまでいろいろ学習してきたと思いますが正しい知識をもっているかどうか確かめてみよう。</p> <p>君は エイズに勝てるか! (3分) さっと読み上げ○、×で答えよう。</p> <p>Q4. エイズをひきおこす病原菌は？ そしてエイズウイルスは、私たち人間の身体のどこにいるのでしょうか。</p> <p>すごい！ さすがよく勉強しているね。 エイズウイルスは、私たちの白血球(血液)や体液の中に生きています。どんなふうにして生きているのかというと、</p> <p style="text-align: center;">人体の免疫システムとエイズウイルス</p> <p>① 微生物が体内に侵入→マクロファージ(食細胞)微生物を食べる、敵の正体や弱点を探りだしヘルパーT細胞に伝える。→②ヘルパーT細胞は、キラーT細胞に命令を出し微生物を攻撃させる→③ヘルパーT細胞はB細胞に微生物に打ち勝つ力(抗体=免疫)を作るよう命令し、それをもってさらにやっつける。</p> <p>たいていの微生物はこのシステムでやっつけ状態をコントロールしている。 ところが、今世界の医学の力を結集してもやっつけることのできないエイズウイルスはさて、この中のどこで生きているのだろうか</p> <p>Q5. このような人体の免疫システムをみた時、君ならどこをねらうか？</p>	<p>隣どうし話合いながら記入しよう。</p> <p>エイズウイルス、 HIVともいう。 白血球、リンパ球、血液、精液</p>	<p>感染経路のチェックリスト 左側の()に記入させる。</p> <p>マクロファージ ヘルパーT細胞 B細胞などの図 エイズウイルス</p> <p>図示して考えさせる。</p> <p>ウイルスは独力では自分の仲間を増やせない</p>

<p>エイズウイルスの正体</p> <p>エイズウイルスは、ヘルパーT細胞の中にもぐりこみ増殖し、ヘルパーT細胞すなわち人間の免疫システムそのものを破壊する。</p>	<p>エイズウイルスは、何と人体の免疫システムの最も中心となるヘルパーT細胞の膜にとりつき、外膜をとかして中に侵入していきます。しまいには、ヘルパーT細胞の中でエイズウイルスがどんどん増え、ヘルパーT細胞そのものを破壊してしまう。そのことによって私たちの身体は、他の微生物の侵入をキャッチすることもできなければ、マクロファージ、キラーT細胞、B細胞に命令をだすこともできない。エイズウイルスの恐ろしさはここにあるんだね。</p>	<p>へえー 面白い、エイズウイルスのここが問題なんだな。</p>	<p>い。他の細胞の中で増殖する性質をもっている。</p>
<p>免疫力の低下 ↓</p> <p>免疫不全の状態</p> <p>A：後天性 I：免疫 D：不全 S：症候群</p>	<p>しかも、エイズウイルスは免疫の中核であるヘルパーT細胞の中に潜り込むために抗体ができにくく、感染しても6～8週間後にしか反応はでない。(その間はキャリアでも陰性) その間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人には感染させる、 ・その人の身体の状態に応じて6～7週間、または2～7年と発病するまでの潜伏期間は長い。 <p>エイズ=後天性免疫不全症候群である。</p>	<p>エイズウイルスは、免疫システムを壊しながら増えていくんだな</p>	<p>自覚症状はないが、免疫機能がしだいに落ちていく。</p>
<p>エイズウイルスに感染してもすぐ発病しない</p> <p>感染後 6～8週間しないと、血液検査で陽性とならない。</p>	<p>ビデオ視聴(7分)</p> <p>* エイズとは、身体の防御反応とエイズウイルス、エイズの症状 初期：発熱、下痢、倦怠感のどの痛み、脳神経障害 日和見感染症、悪性腫瘍、脳神経障害等の合併症を起こしエイズとなる。</p> <p>* エイズは、このような病体にもかかわらず治療法が確立されていない。</p> <p>* 病気の進行を遅らせるAZT, ddIなどの薬はあるが、完治には至らない</p> <p>近い将来みなさんの中からこの難病中の難病であるエイズウイルスをやっつける医学者や科学者がでてほしいと希望します。</p>	<p>ビデオを見ながら、学習カードにまとめていく。</p> <p>カボジ肉腫、カリニ肺炎.... 気持ち悪いと顔をそむけて見る。</p>	<p>ビデオ「エイズとは」学習カード</p>
<p>エイズウイルスの感染経路</p> <p>①血液感染</p> <p>②性交感染</p> <p>エイズウイルスは、血液、精液、経分泌液の順に多く含まれている。</p> <p>粘膜からの侵入、</p> <p>③ 母子感染</p>	<p>エイズウイルスの感染経路</p> <p>① 血液感染・皮膚と皮膚の接触では移らない。</p> <p>*自分の血液を自分で処理し、他人に触れさせない努力をマナーとして心がける。</p> <p>② 性交=異性交接触(同性愛者の件に触れる) 性交について復習しその意義を確認しあう。</p> <p>*生殖性(いのちを受けつぐ)</p> <p>*快楽性(許しあえる関係、楽しい、スキンシップ、コミュニケーション)</p> <p>*連帯性(認めあえる関係、心やすらぐ、落ちつく、親子愛、夫婦愛)</p> <p>③ 母子感染・定期受診によって疾病異常の早期発見が可能である。</p>	<p>感染経路について発表する。</p> <p>これまでの保健学習などから知っていることをあげてみよう。</p>	<p>血液製剤は熱処理により感染しない。</p> <p>日本・南アジアのエイズ感染者の急増は、不特定多数の異性とのいわゆる快楽的な性行為によるものが多いと思われる。</p>
<p>問題解決の追究</p>	<p>Q.6 今、なぜエイズが問題なのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジア、日本におけるエイズ感染者の急増(2000年には感染者がピークとなる) ・男女間の性的接触による感染の増加。 ・20代の感染者が50%を占める。 	<p>治療法がない、死亡率が高い、ほとんど感染者が増え続けている。</p> <p>まさか自分達の時代なの……。</p>	<p>2000年に20代になるのは今の小学校高学年、中・高校生である</p>

<p>実践への意欲化</p> <p>エイズウイルスは、熱や乾燥に弱い、各種消毒薬にも弱い、普通の生活では移らない。</p> <p>エイズ患者の精神的な心情を実感させる。</p>	<p>まとめ</p> <p>どのようにしたらエイズは予防できるか</p> <p>* エイズについての科学的な確かな知識をもつことによって、感染しない、させない、感染しても発病しない努力をしよう。</p> <p>* 性の自立—男女の心や身体のしくみを知り、互いを認めあえる生き方をしよう</p> <p>・性交感染においては、コンドームの着用よりも、性行為に対する判断や意志決定が大切である。 (性行為に至るまでの男女の人間関係が大切である。)</p> <p>* エイズ患者に偏見をもつのではなく、支えあう生き方をしよう。(共生)</p>	<p>まず、自分がエイズにかからない努力をする。 “エイズを知ればエイズにならない”</p> <p>自分の人生をとにもすすめる相手とのであいが大事なんだな。</p> <p>今日の学習で感じたことをまとめる。</p>	<p>* 一人ひとりの生き方にかかっている。</p> <p>コンドームで予防する前には、大切なことは何か</p> <p>* 心とからだのバランスがとれないように。</p>
--	---	---	---

(3) 評価

- エイズについての正しい知識、理解ができたか。
- エイズを予防するための生活の仕方や生き方がわかったか。

5. 指導後の反省と課題

本時の主題が今、話題のエイズとあって、生徒は関心をもって意欲的に学習に取り組んだ。保健学習の復習として、また生徒のエイズに対する知識や理解の程度把握のため簡単なチェックリストを作成し、授業の前後に実施した。その結果、多くの生徒が授業前の誤答に気づき訂正していた。

人体の仕組みにおける免疫機構を、自作教材で具体的に図示し、エイズウイルスの正体や性質についてイメージをもたせ、ビデオにより生徒の視覚にじかに触れさせることにより生徒の理解を深めることができたように思われる。(生徒の感想参照)

また、本時のねらいのひとつである「性交の意義」についても、人体のしくみから生殖における体内授精の意味を、科学的に知らせると同時に、父母と自分の存在や家庭環境から性の快楽性や連帯性について考えさせ、「性の自立」にむけての見通しをもたせるようにした。

さらに、世界や日本におけるエイズの流行状況や年齢別感染者状況、感染経路別の患者・感染者数の変化などから今、なぜエイズが問題なのかを考えさせ、エイズを身近なものとしてとらえさせることに留意した。

以上のことをふまえ、エイズについての具体的で確かな知識をもつこと、男女の自立した人間関係や生きあう中での性交の意義について、指導者の人生観や子育てを通して一人の人間として、母親として、教師として実感をこめ生徒の心情に訴えることにより、エイズの予防の仕方や偏見・差別など自分の将来の生き方とかかわらせて考えるきっかけとなったのではないかと思われる。

しかし、エイズ教育についてとりかかっただけであり、全体的な指導内容と1単位時間の内容構成、その他教材研究など反省と課題だらけである。

ただ、本時の指導をとおして

- エイズ教育に対するイメージがつかめたこと

- ・エイズ教育は生徒の実態や心身の発達段階に応じた性教育をふまえて行うこと
- ・エイズは性感染症のひとつであること
- ・生徒からのエイズその他性に関する疑問や相談が、多くなったこと

などを実感し確認できたことは成果としたい。

今後の課題としては、

- ・学年に応じたエイズ指導を含めた性教育のカリキュラムの作成
- ・校内教官研修により共通理解をはかること
- ・学校保健委員会およびPTA活動におけるエイズ教育と啓蒙

などである。目の前にいる中学生が、これからのエイズ時代をどう生きるのか、今、養護教諭としてできることは何なのかと反すうしながらできるところから取り組んでいきたい。

今日のこのエイズ授業では、色々な事を学んだと思う。授業性だけじゃなく、命の木や命の輪が大切だと思ふ。そして、自分の体がエイズに感染したらイヤだ。その人を助けてあげることが大切だと思ふ。そしてエイズを治すことが大切だと思ふ。今日は、とてもいい勉強をしたと思ふ。

AIDSは、ある程度予防が出来る知識、理解が不可欠。今の先生の気持ちとあわせて、AIDSの自立という言葉をよく考えておきたいと思ふ。そして、AIDSに感染した人がいたら、そばにいてあげたいと思ふ。

AIDSの正体とともに、AIDSのうつろい、予防することを知ることができた。又、予防などをしっかりと心がけていきたい。自分ががっかりなことが一つある。それは、自分が人にも交え、またいろいろな人がAIDSについて正しい知識を持っていてくれたら、この病気はなくなり、けさなうと思ふ。

自分はAIDSには感染しないように気をつけて。AIDSについてはある程度知識を身につけておきたい。それが正しいことがわかって、新しいことを学べたのでよかったと思ふ。AIDSの人達を尊重してあげられるようになりたいと思ふ。目をこらして欲しい。

AIDSという病気を恐ろしいが、世の中の偏見というものは怖いと思ふ。偏見をなくするためには、そのAIDSという病気について、どんな状態に理解し合う必要があると思ふ。それを付いて、私は、ガリガリに病気があって、自分でそれを管理できるようにしたいと思ふ。AIDSという病気、それはとても重大な問題だが、それが時それを見守る私たちが、心かまるとも大切だと思ふ。

何と云うか、とにかく一人一人が重大責任だ。そして改めて思ったこと——絶対にエイズ患者を差別してはいけないということ。また「またエイズに勝つてはいないけれど、少なくとも、差別

私達がエイズにすることによって、負けてしまうという事実をしっかり受けとめた。

私はAIDSは怖い、怖いと思ふ。それは、血液が伝わる。親がうつったり、性行為でうつったり。それに、自分の体の中にある白血球の中にAIDSはうつっていく。それは、自分を守るために、自分を守ることが大切だと思ふ。ありがとうございました。

私は、自分にはAIDSはうつらない。でも、それは、自分を守るために、自分を守ることが大切だと思ふ。私は、そういうことはしっかりと覚えておきたい。エイズ感染者が、自分も早くエイズを治す薬をいいたい。

——— 子どもの感想から ———

5. まとめにかえて

養護教諭の行う学級活動における保健指導の場合、二つの課題があるように思われる。その一つは、一時間内における教育内容の多さである。二つ目には「保健行動の変容」をめざすあまりの「おしつけ的保健指導・行動」になりがちなことである。「内容の多さと説明の多さ」は、森⁹⁾の指摘する「学ぶ意欲、実践する意欲、という『意欲』の問題を取り上げ、養護教諭の親切丁寧な指導について、『あまりにも教え込み』すぎているがために、学び手の能動性、意欲が湧いてこない」状況を生み出す場合があるし、一方ではそのことが「おしつけ的保健行動」にも結びつく可能

性があることを確認しておく必要がある。したがって「エイズ教育」のみならず他の健康問題についても小・中・高において教える中味および具体的な展開方法を含めた教材づくりと開発が急務である。

今回不十分な授業分析に終わったが、このような授業研究の積み重ねが「いつでも取り出せる・いつでも提供できる」保健指導・保健学習のための教材・資料の蓄積へとつながると考える。他の視点からの授業の分析やその方法については別に報告する。

なお、本稿は「平成4年度教育方法改善プロジェクト実施」に伴う研究の一環であることを付しておく。

文 献

- (1) 森 昭三：「性教育時代に果たすべき養護教諭の役割」、保健教室、44 (3)、1993、2
- (2) 近藤真庸：「保健の授業記録論」、体育科教育、40 (9)、1992、8
- (3) 近藤真庸：「学校健康教育と養護教諭の役割」、体育科教育、40 (12)、1992、10
- (4) 藤岡信勝：「ストップモーション方式による授業研究の方法」、学事出版、1991
- (5) 森 昭三：「これからの養護教諭と健康教育のあり方」、健康教室、43 (3)、1992、2